

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3217686号
(U3217686)

(45) 発行日 平成30年8月30日 (2018. 8. 30)

(24) 登録日 平成30年8月8日 (2018. 8. 8)

(51) Int.Cl.

A 6 1 B 17/42 (2006.01)

F 1

A 6 1 B 17/42

評価書の請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2017-600006 (U2017-600006)
 (86) (22) 出願日 平成27年7月31日 (2015. 7. 31)
 (86) 国際出願番号 PCT/CN2015/085728
 (87) 国際公開番号 W02016/192194
 (87) 国際公開日 平成28年12月8日 (2016. 12. 8)
 (31) 優先権主張番号 201520384022.2
 (32) 優先日 平成27年6月4日 (2015. 6. 4)
 (33) 優先権主張国 中国 (CN)

(73) 実用新案権者 517005097
 任 瓊珍
 中華人民共和国 2 1 5 0 0 0 江蘇省蘇州蘇
 州新区沁怡家園 1 5 - 2 0 5 ナンバー
 (74) 代理人 100101454
 弁理士 山田 卓二
 (74) 代理人 100081422
 弁理士 田中 光雄
 (74) 代理人 100132241
 弁理士 岡部 博史
 (72) 考案者 任 瓊珍
 中華人民共和国 2 1 5 0 0 0 江蘇省蘇州蘇
 州新区沁怡家園 1 5 - 2 0 5 ナンバー

最終頁に続く

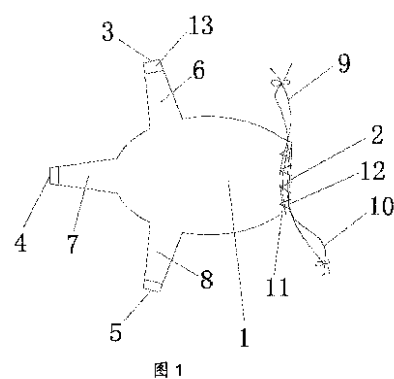
(54) 【考案の名称】 腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 腫瘍組織が袋外に飛び散ることを防止する腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋を提供する。

【解決手段】 腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋は、第1袋口2、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5が設けられている主袋体1を含む。第1袋口2は腫瘍組織を収容するために用いられ、第1袋口のエッジに、第1袋口を縛るための紐9、10が挿設される。第3袋口は第1袋口の位置に対向し、第2袋口、第3袋口及び第4袋口は、それぞれ第1シース、第2シース及び第3シースを入れるために用いられ、第1シース、第2シース及び第3シースは、それぞれ筋腫破碎器具、腹腔鏡及び操作用鉗子を入れるために用いられる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 袋口 (2)、第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) が設けられている主袋体 (1) を含み、前記第 1 袋口 (2) は腫瘍組織を収容するために用いられ、前記第 1 袋口 (2) のエッジに、前記第 1 袋口 (2) を縛るための紐が挿設され、前記第 3 袋口 (4) は前記第 1 袋口 (2) の位置に対向し、前記第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) は、それぞれ第 1 シース、第 2 シース及び第 3 シースを入れるために用いられ、前記第 1 シース、第 2 シース及び第 3 シースは、それぞれ筋腫破碎器具、腹腔鏡及び操作用鉗子を入れるために用いられる、ことを特徴とする腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

10

【請求項 2】

前記主袋体 (1) には、前記第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) に対応して、第 1 袋首 (6)、第 2 袋首 (7) 及び第 3 袋首 (8) がそれぞれ設けられている、ことを特徴とする請求項 1 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

【請求項 3】

前記紐はいずれも前記第 1 袋口 (2) の折返し部 (11) に挿設されている第 1 紐 (9) 及び第 2 紐 (10) を含み、前記第 1 紐 (9) は前記折返し部 (11) に挿入され、前記第 1 袋口 (2) を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、前記第 1 紐 (9) の両端が結節され、前記第 2 紐 (10) の挿入位置は、第 1 紐 (9) の挿入位置と、前記折返し部 (11) の中心に関して対称であり、前記第 2 紐 (10) は前記折返し部 (11) に挿入され、前記第 1 袋口 (2) を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、前記第 2 紐 (10) の両端が結節される、ことを特徴とする請求項 1 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

20

【請求項 4】

前記折返し部 (11) には、主袋体 (1) の外部に向かう複数の切欠 (12) が設けられている、ことを特徴とする請求項 3 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

【請求項 5】

前記第 1 袋首 (6)、第 2 袋首 (7) 及び第 3 袋首 (8) はいずれもテープ状であり、前記第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) はいずれも前記テープ状の小端部に位置する、ことを特徴とする請求項 2 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

30

【請求項 6】

前記第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) には、区別するための識別マーク (13) がそれぞれ設けられている、ことを特徴とする請求項 1 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

【請求項 7】

前記識別マーク (13) として、異なる袋口に合わせて異なる色のリボンが使用される、ことを特徴とする請求項 6 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

【請求項 8】

前記主袋体 (1) は楕円形構造であり、前記第 1 袋口 (2) の中心と第 3 袋口 (4) の中心との間の連結線が前記楕円形の長軸と重なっている、ことを特徴とする請求項 1 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

40

【請求項 9】

前記主袋体 (1) は容積が 150～2000ml であり、前記第 1 袋口 (2) は直径が 50～200mm であり、前記第 2 袋口 (3)、第 3 袋口 (4) 及び第 4 袋口 (5) は直径がいずれも 5～20mm であり、前記第 1 袋首 (6)、第 2 袋首 (7) 及び第 3 袋首 (8) は長さがいずれも 50～100mm である、ことを特徴とする請求項 2 に記載の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋。

【考案の詳細な説明】

50

【技術分野】

【0001】

本実用新案は医療機器の分野に関し、特に腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋に関する。

【背景技術】

【0002】

腹腔鏡下婦人科低侵襲手術は、腹骨盤腔内で行われるものであり、医師がモニタの画面を直視しながら、腹腔外で腹骨盤腔に挿入された手術器具を操作して、手術を完成させる。腹腔鏡下子宮摘出術又は子宮筋腫核出術は、腹腔鏡下で子宮又は筋腫を切り取った後、筋腫破碎機の高速回転するブレードにより腹腔内で組織を切断し破碎して、体表における小さな切り口から病変組織を取り出すものである。

10

【0003】

米国食品医薬品局（FDA）の分析によると、子宮摘出術又は子宮筋腫核出術の350例に1例の割合で未検出の子宮肉腫が見つかることである。これは、高速回転するブレードにより腫瘍組織が骨盤内及び腹腔内に散在してしまい、癌細胞の播種につながる可能性があり、患者の生存の可能性を大幅に減少させるからである。

【0004】

病変組織の播種を抑制し、腹腔内および骨盤内での伝播リスクを低減するために、いくつかの臨床医療機関は、破碎術で回収袋を使用することを試した。現在、手術用使い捨て回収袋は、医用高分子材料で筒状に作られ、前シースロッド内に入れられて、シースを通して手術領域に円滑に入ることができ、柔らかなメモリーワイヤの拡大装置によって回収袋の袋口を広げることができる。手術で切除したものは、回収袋に収容され、切除したものが柔らかくて体積が比較的小さい場合、内シースのハンドルを外へ引くことによって、回収袋の袋口を外シースロッドと穿刺具に収納して、回収袋を切除したものと同時に一度に体外へ抜き出し、切除したものが柔らかいが体積が比較的大きい場合、取り出し具の内シースロッドを折って、外シースロッドと穿刺具を抜き出し、手術の切り口の外に回収袋を露出させてから広げて、数回に分けて鉗子で切除したものを引き裂いて取り出すことができる。

20

【0005】

しかしながら、このような回収袋においては、1. 回収袋は、腹腔で完全には広げられないため、回転ブレードヘッドにより誤って切られる、2. 腫瘍組織を回転切除する時に、袋口が拡張状態にあるため、一部の腫瘍組織が依然として袋の外に飛び散り、腹腔に入る、3. 袋壁に水蒸気が溜まりやすいため、袋を通して観察する際に視界が悪く、回転ブレードヘッドにより腹骨盤腔内の重要な臓器が誤って傷つけられる等のような問題がある。

30

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

本考案は、手術の安全性を確保し、腫瘍組織が袋外に飛び散らないようにするための、腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋を提案することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0007】

この目的を達成するために、本考案は、以下の技術方案を採用する。

【0008】

腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋は、第1袋口、第2袋口、第3袋口及び第4袋口が設けられている主袋体を含み、前記第1袋口は腫瘍組織を収容するために用いられ、前記第1袋口のエッジに前記第1袋口を縛るための紐が挿設され、前記第3袋口は前記第1袋口の位置に対向し、前記第2袋口、第3袋口及び第4袋口は、それぞれ第1シース、第2シース及び第3シースを入れるために用いられ、前記第1シース、第2シース及び第3シースは、それぞれ筋腫破碎器具、腹腔鏡及び操作用鉗子を入れるために用いられる

50

。

【0009】

更に、前記主袋体には、前記第2袋口、第3袋口及び第4袋口に対応して、第1袋首、第2袋首及び第3袋首がそれぞれ設けられている。

【0010】

更に、前記紐はいずれも前記第1袋口の折返し部に挿設されている第1紐及び第2紐を含み、前記第1紐は前記折返し部に挿入され、前記第1袋口を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、前記第1紐の両端が結節され、前記第2紐の挿入位置は、第1紐の挿入位置と、前記折返し部の中心に関して対称であり、前記第2紐は前記折返し部に挿入され、前記第1袋口を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、前記第2紐の両端が結節される。

10

【0011】

更に、前記折返し部には、主袋体の外部に向かう複数の切欠が設けられている。

【0012】

更に、前記第1袋首、第2袋首及び第3袋首は、いずれもテーパ状であり、前記第2袋口、第3袋口及び第4袋口はいずれも前記テーパ状の小端部に位置する。

【0013】

更に、前記第2袋口、第3袋口及び第4袋口には、区別するための識別マークがそれぞれ設けられている。

【0014】

更に、前記識別マークとして、異なる袋口に合わせて異なる色のリボンが使用される。

20

【0015】

更に、前記主袋体は楕円形構造であり、前記第1袋口の中心と第3袋口の中心との間の連結線が前記楕円形の長軸と重なっている。

【0016】

更に、前記主袋体は容積が150～2000mlであり、前記第1袋口は直径が50～200mmであり、前記第2袋口、第3袋口及び第4袋口は直径がいずれも5～20mmであり、前記第1袋首、第2袋首及び第3袋首は長さがいずれも50～100mmである。

。

【考案の効果】

30

【0017】

本考案の腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋は、主袋体に四つの袋口が設けられ、そのうちの一つの袋口が腫瘍組織を囲み、他の三つの袋口が手術器具を挿入するために用いられ、腫瘍組織が袋外に飛び散ることを効果的に防止する。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本考案の実施形態が提供する腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋の構造模式図である。

【考案を実施するための形態】

【0019】

以下、図面を参照しながら具体的な実施形態により本考案の技術方案を更に説明する。

40

【0020】

図1に示すように、腹腔鏡下子宮筋腫破碎術用使い捨て回収袋は、第1袋口2、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5が設けられている主袋体1を含み、第1袋口2は腫瘍組織を収容するために用いられ、第1袋口2のエッジに、第1袋口2を縛るための紐が挿設され、第3袋口4は第1袋口2の位置に対向し、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5は、それぞれ第1シース、第2シース及び第3シースを入れるために用いられ、第1シース、第2シース及び第3シースは、それぞれ筋腫破碎器具、腹腔鏡及び操作用鉗子を入れるために用いられている。腹腔鏡を入れる第3袋口4は、腫瘍組織を収容する第1袋口2に対向し、観察の便宜を図っている。

50

【0021】

本回収袋は、第1袋口2により腫瘍組織を囲み、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5を通して手術器具を挿入することによって、腫瘍組織が袋外に飛び散ることを効果的に防止し、各シースが袋口の中に配置されるため、袋口を広げやすくなり、且つ手術器具による回収袋の破損を防止する。

【0022】

主袋体1には、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5に対応して、第1袋首6、第2袋首7及び第3袋首8がそれぞれ設けられており、袋首を手術器具の挿入に用いることによって、主袋体1の収容スペースを占有することを回避する。

【0023】

紐はいずれも第1袋口2の折返し部11に挿設されている第1紐9及び第2紐10を含み、第1紐9は折返し部11に挿入され、第1袋口2を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、第1紐9の両端が結節され、第2紐10の挿入位置は、第1紐9の挿入位置と、折返し部11の中心に関して対称であり、第2紐10は折返し部11に挿入され、第1袋口2を一周まわってから、その挿入位置から引き出され、第2紐10の両端が結節される。第1袋口2を縛る際に、第1紐9と第2紐10との結節部位を反対方向へ引っ張ればよく、便利で速い。

【0024】

折返し部11には、主袋体1の外部に向かう複数の切欠12が設けられており、第1袋口2を縛る際に、切欠12によって、縛られる第1袋口2の占有スペースが小さくされる。

【0025】

第1袋首6、第2袋首7及び第3袋首8はいずれもテーパ状であり、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5はいずれもテーパ状の小端部に位置し、これによって、シースが抜け落ちることがなく、手術が行われやすくなる。

【0026】

第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5には、区別するための識別マーク13がそれぞれ設けられ、これにより、異なる袋口を区別しやすくなり、手術操作に便宜を与え、手術完了時に鉗子で回収袋を腹腔から引き出しやすくなる。本実施形態において、識別マーク13として、異なる袋口に合わせて異なる色のリボンが使用されるが、当業者は他の識別マークを使用してもよい。

【0027】

主袋体1は楕円形構造であり、第1袋口2の中心と第3袋口4の中心との間の連結線が楕円形の長軸と重なっている。楕円形の主袋体1によって、袋体が腹腔鏡の視界を遮ることが効果的に防止されるとともに、操作スペースが拡大される。

【0028】

主袋体1は容積が150～2000mlであり、第1袋口2は直径が50～200mmであり、第2袋口3、第3袋口4及び第4袋口5は直径がいずれも5～20mmであり、第1袋首6、第2袋首7及び第3袋首8は長さがいずれも50～100mmである。

【0029】

当該回収袋は、腫瘍組織が袋外に飛び散ることを防止する課題を解決できるだけでなく、このような回収袋が手術中に良好な閉鎖状態にあり、回収袋が完全に広げられることを確保できるため、回転ブレードヘッドによって回収袋が切られることがない。更に、手術中に腹腔鏡が回収袋内に入るため、袋を通して観察する際に視界が悪いという問題を引き起こすことがなく、手術の安全性が更に確保される。

【0030】

明らかに、本考案の上記実施形態は、本考案を明確に説明するための例示に過ぎず、本考案の実施形態を限定するものではない。当業者にとって、上記説明を基に、他の形態の変化又は変更を行うことができる。ここで、すべての実施形態を挙げようもなく、その必要もない。本考案の構想と原則以内で行ったいかなる修正、均等な置換及び改善などは、

10

20

30

40

50

すべて本考案の保護範囲内に含まれるべきである。

【符号の説明】

【0031】

1－主袋体、2－第1袋口、3－第2袋口、4－第3袋口、5－第4袋口、6－第1袋首、7－第2袋首、8－第3袋首、9－第1紐、10－第2紐、11－折返し部、12－切欠、13－識別マーク

【図1】

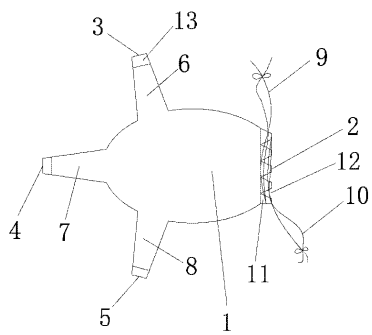


図1

フロントページの続き

(72)考案者 レン・アンチェン

中華人民共和国 215000 ジャンスー、スージョウ、スージョウ・ニュー・ディストリクト、チ
ンイージアユエン、15-205号

(72)考案者 フウ・イージア

中華人民共和国 215000 ジャンスー、スージョウ、スージョウ・ニュー・ディストリクト、チ
ンイージアユエン、15-205号

专利名称(译)	用于腹腔镜子宫肌瘤破坏的一次性收集袋		
公开(公告)号	JP3217686U	公开(公告)日	2018-08-30
申请号	JP2017600006U	申请日	2015-07-31
[标]发明人	任瓊珍 レンアンチェン フウイージア		
发明人	任 瓊珍 レン・アンチェン フウ・イージア		
IPC分类号	A61B17/42		
CPC分类号	A61B17/00234 A61B90/92 A61B2017/00287 A61B2017/4216		
FI分类号	A61B17/42		
代理人(译)	山田卓司 田中，三夫		
优先权	201520384022.2 2015-06-04 CN		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为腹腔镜子宫肌瘤破坏手术提供一次性收集袋，以防止肿瘤组织从袋子中散出。 解决方案：用于腹腔镜子宫肌瘤破裂外科手术的一次性收集袋包括主袋体1，其具有第一袋口2，第二袋口3，第三袋口4和第四袋口5包括。第一袋口2用于容纳肿瘤组织，并且用于粘合第一袋口的绳9,10插入第一袋口的边缘。第三袋口面向第一袋口，第二袋口，第三袋口和第四袋口分别用于放置第一护套，第二护套和第三护套，第一护套，第二护套和第三护套分别用于放置肌腱断裂装置，腹腔镜和操作钳。 点域1

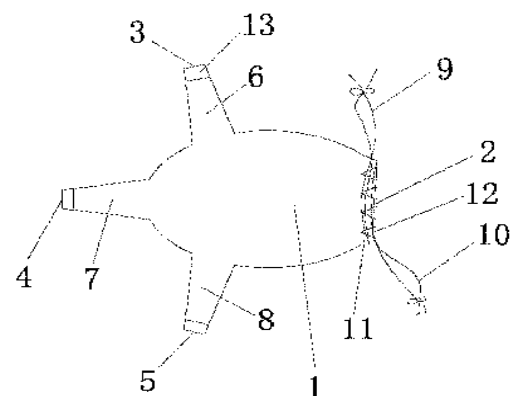


图 1